

「演劇」から広がるワタシの「未来」



©Kato Shinpei

◇本格派、演劇コースGuide

身体表現と舞台芸術メジャー

舞台技術・公演マイナー

演劇ワークショップ実践マイナー



四国学院大学

演劇コース カリキュラム

2011年に演劇コースをスタートさせて以来、多くの卒業生が社会へと巣立っていきました。俳優、照明家、プロデューサー、美術家、映像作家など、学生時代から活躍し、そのままプロになった人。地元に戻り、定職に就きながら演劇活動をしている人。小学校教員や保育士など演劇コースで培ったスキルを活かして職場で活躍する人。彼らは在学中にたくさんの経験をしました。プロの演出家や振付家と創る舞台、子ども向けの音楽劇、就労継続支援施設との共同企画公演、保育園や小学校でのワークショップなど、実践的な学びの中で、「自分が何をしたいか」「自分に何ができるか」を常に問いかけて自分で将来の道を見つけ、切り開いていったのです。プロを目指す人はもちろん、「演劇やダンスをやってみたくて将来が不安」と思っている人にもこそ、本学への進学をお薦めします。ぜひ、本学の演劇コースで、仲間と切磋琢磨し、自分の将来を見つけてください。そのための機会と知識と技術を私たちは全力で用意いたします。

四国学院大学教授・ノーススタジオ芸術監督 西村和宏

舞台芸術を幅広く総合的に学ぶ

プロの俳優を目指す

身体表現と舞台芸術メジャー

発声や身体トレーニング、演劇史、演出論など表現者としての基礎を体系的に学びます。また、国内外で活躍するプロの演出家や振付家による集中的なワークショップ授業を通して、最先端の知識と技術を実践的に学びます。これらの学びを通して、プロの俳優・ダンサーを目指すための表現力や、他者理解・協働性・コミュニケーションといった社会に主体的に関わる能力を身につけます。



スタッフワークを学ぶ

舞台技術・公演マイナー

舞台芸術は、演出家や役者に加え、照明、音響、美術など、テクニカルな要素が必要不可欠です。各分野で活躍している照明家、音響家、美術家たちから基礎的な知識や技術を学んだ後、大学内の劇場ノーススタジオで行われる公演や地域のプロジェクトに関わり、実践の中で学ぶことで将来仕事を上での自信と経験を培うことを目指します。



演劇ワークショップで社会とつながる

演劇ワークショップ実践マイナー

現代社会で求められるコミュニケーション能力や自主性を磨き、対話力や地域活性化、ワークショップデザインの力を養います。また、アーツ・マネジメントの視点から、公演企画や広報などの実務を学び、表現者と鑑賞者をつなぐ役割を体験的に学びます。さらに、地元の公共ホールや演劇祭でのインターンシップを通じて、実践力や文化政策に関する知識を学び、教育や福祉現場でも活かせる即戦力を身につけます。

演劇を学びながら、教員・保育士・社会福祉士を目指す

四国学院大学では学部を超えた学びが可能です。演劇を学びながら、教員や保育士、社会福祉士などの資格取得を目指すことができます。「他者理解」「表現力」「協働性」「寛容性」「コミュニケーション力」を演劇で培い、将来の夢に繋がります。また、在学中から学外での公演も経験できます。子ども向け演劇の上演や障がいのある方たちとの作品づくり、県内外の小学校でのワークショップなど様々な体験を通して演劇が社会にできることを学びます。



専任教員



西村和宏 | Kazuhiro Nishimura

教授、演出家、サラダボール主宰、ノーススタジオ芸術監督
1973年生まれ。兵庫県出身。1999年より川村毅氏が主宰する劇団青年団の演出部に所属。2011年より現四国学院大学身体表現と舞台芸術メジャー(演劇コース)にて教鞭を執る。これを機に活動の拠点を香川に移し、香川県内で創作した作品を四国圏域、首都圏で発表している。



阪本麻郁 | Maya Sakamoto

教授、振付家、ダンス教育者
1971年京都生まれ。キウ国立バレエ学校でバレエを学び、京都ダンスアカデミー、N.Y.などでコンテンポラリー・ダンスを学ぶ。ケルン音楽大学でダンス教育を学んだ後、ポプム市立劇場、タンツハウスNRWなどでダンサー、バレエ・トレーナーを務める。帰国後は四国学院大学演劇コースにて役者の為の身体トレーニングや振付を教えると共に地域の子どもたちに向けたワークショップも多数実施している。



仙石桂子 | Keiko Sengoku

教授、修士(教育学)、
即興演劇シー・ソーズ・オムツカぶれ主宰
2006年より一橋大学学生相談室職員、2010年よりタイのシラチャ日本人学校国語科専任教諭を経て、2012年より現職。専門は演劇教育、インプロ(即興演劇)。現在、小学校・高校や社会福祉施設、丸亀少女の家など矯正教育の分野でも演劇教育を実践している。2014年より長編・短編の劇作・演出を手掛け、毎回異なる市民と学生、プロの俳優との共同制作を行い、年に2本ずつ公演を行ってきた。著書に「ドラマ教育入門」(図書文化社、共著)。

プロの舞台芸術を体験できるSARP(四国学院大学アーティスト・イン・レジデンス・プログラム)

本学では、年間を通して数多くの舞台芸術公演が授業として行われ、役者や舞台技術スタッフなど学生が主体となり運営しています。

中でも、プロの演出家・振付家が1ヶ月程、学内に滞在し、学生と作品を創って上演する授業「四国学院大学アーティスト・イン・レジデンス・プログラム＝通称SARP(サーブ)」では年に2回のペースで公演を行っています。



©Kato Shinpei

[SARP vol.26]

ポケットの中の月

原作：稲垣足穂(「一千一秒物語」より)／

構成・演出・振付：いいむろなおき

2025年1月11日(土)－15日(水)

稲垣足穂「一千一秒物語」より、いくつかのシーンをマイムの手法と身体表現で立ち上げ、原作に漂う幻想的で不思議な世界観を、一つの物語として創作しました。「一千一秒物語」は天体を擬人化するなど日常ではありえない描写が多く登場します。そのありえない部分を想像する楽しさと、観客の少しの想像力を借りて余白を埋めていくマイムの手法は非常に親和性が高く、どんな世代の方にも楽しく観劇してもらえる作品となりました。様々なダンスや演劇の経験値を持つ学生11名が、原作を読み、得たテーマやニュアンスをマイムを用いて身体に落とし込みながら、稲垣足穂の世界観を個性豊かに表現しました。



撮影：堀川高志
(kutowans studio)

[プロフィール]

いいむろなおき | Naoki Iimuro

マイム俳優・演出家・振付家
パリ・マルセル・マルソー国際マイム学院卒業
ニデルメイエ国立音楽院コンテンポラリーダンス科最上級クラス首席卒業
いいむろなおきマイムカンパニー主宰
2009年「第3回世界デルフィックゲーム大会」
即興マイム部門金メダリスト
2021年 東京2020パラリンピック開会式出演

[SARP vol.25]

その人を知らず

作：三好十郎 / 演出：多田淳之介

2024年10月23日(水)－27日(日)

太平洋戦争の戦中と戦後を舞台に、「なんじ殺すなかれ」を純朴に守り抜く一人のキリスト教徒の生き方を描いた劇作家三好十郎の代表作。三好の力強く美しいセリフと躍動感あふれる多田演出に学生たちが真正面から向き合いました。ライブ映像、J-pop、マイクパフォーマンスなど、さまざまな演出的趣向と学生のまっすぐな身体性が前の戦争と今の戦争と先の戦争を喚起させた本作は、観客に大きな衝動を与え、毎回、カーテンコールでは大きな拍手が学生たちに送られました。



[プロフィール]

多田淳之介 | Junnosuke Tada

演出家。東京デスロック主宰。古典から現代戯曲、ダンス作品、市民参加作品など幅広く手がける。公共劇場の芸術監督、自治体のアートディレクター、国際舞台芸術祭のディレクターを歴任し、国際交流活動、劇場や学校、施設での子どもからシニアまで様々な世代とのワークショップや作品作り、地域交流プログラムなどを数多く手掛ける。日韓合作「ガムメ カルメギ」にて韓国の第50回東亜演劇賞演出賞を外国人として初受賞。2010年～2019年富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督、2015年～2019年高松市アートディレクター。女子美術大学、四国学院大学非常勤講師。



©Makoto Tomioka

これまでのSARP作品

[SARP vol.1]

生きてるものはいないのか

作・前田司郎 / 演出・上村聡史

2011年7月7日(木) - 10日(日)

[SARP vol.2]

コンテンポラリーダンス作品

駐車禁止

振付・演出・矢内原美邦

2011年12月1日(木) - 4日(日)

[SARP vol.3]

われわれのモロモロ

— 四国学院編 —

構成・演出・岩井秀人

2012年6月5日(火) - 10日(日)

[SARP vol.4]

ニッポン・ウォーズ

作・川村毅 / 演出・西村和宏

2012年10月17日(水) - 21日(日)



ミックスカルチャー ©Don Carroll

[SARP vol.17]

mizugiwa/madogiwa

作・演出・藤田貴大(マームとジブシー)

2019年9月14日(土)・15日(日)

[SARP vol.18]

星の祭に吹く風

作・演出・小池竹見 /

脚本協力・TOHOKU Roots Project

2020年10月3日(土) - 10月6日(火)

[SARP vol.19]

S 高原から

作・平田オリザ / 演出・山内健司

2020年12月17日(木) - 20日(日)

[SARP 20回記念公演]

義経記 REMASTER

監修・補綴・木ノ下裕一 /

演出・西村和宏 / 振付・阪本麻郁

2021年5月19日(水) - 23日(日) /

2022年1月22日(土)・23日(日)

[SARP vol.5]

息・秘そめて

作・演出・明神慈

2013年7月4日(木) - 7日(日)

[SARP vol.6]

近代能楽集

作・三島由紀夫 / 演出・関美能留

2013年11月20日(水) - 24日(日)

[SARP vol.7]

ヤングスターライト!

作・演出・音楽・糸井幸之介

2014年7月24日(木) - 27日(日)

[SARP vol.8]

ジュリアス・シーザー

作・ウィリアム・シェイクスピア /

訳・福田恆存 / 演出・森新太郎

2014年12月3日(水) - 7日(日)



ジュリアス・シーザー

[SARP vol.9]

日独共同制作公演

空、流れる風...

演出・振付・ハイデ・テゲダー

2015年5月28日(木) - 31日(日)

[SARP vol.10]

ROMEO & JULIET

構成・演出・多田淳之介 /

原作・ウィリアム・シェイクスピア

2016年1月31日(日) - 2月5日(金)

[SARP vol.11]

大丈夫。

振付・演出・白神ももこ

2016年7月7日(木) - 7月10日(日)

[SARP vol.12]

くちきかん

作・演出・工藤千夏

2017年2月5日(日) - 10日(金)

[SARP vol.13]

カスケード〜やがて時がくれば〜

作・岩松了 / 演出・松井周

2017年11月22日(水) - 26日(日)

[SARP vol.14]

ミックスカルチャー

演出・わたなべなおこ

2018年5月23日(水) - 27日(日)

[SARP vol.15]

レモネード・インセスト

作・演出・江本純子

2018年7月25日(水) - 29日(日)

[SARP vol.16]

平家物語 REMASTER

監修・補綴・木ノ下裕一 /

演出・西村和宏

2019年7月10日(水) - 14日(日)



義経記 REMASTER ©Don Carroll

各ジャンルのプロによる集中的な実践教育



©Yuki Sugiura

鴻上尚史 | Shoji Kokami

作家、演出家、四国学院大学客員教授
1958年愛媛県出身。早稲田大学法学部在学中、1981年に劇団「第三舞台」を結成し、『朝日のような夕日をつれて』『天使は瞳を閉じて』『トランス』を始め多くの作品の作・演出を手がける。97年には演劇ワークショップのリサーチのため渡英し、俳優育成のためのワークショップや講義を精力的に行うほか、表現、演技、演出などに関する書籍を多数発表している。舞台公演の他にはエッセイスト、小説家、テレビ番組司会、ラジオ・パーソナリティ、映画監督など幅広く活動。受賞歴は紀伊國屋演劇賞、岸田國士戯曲賞、読売文学賞など。



岩松了 | Ryo Iwamatsu

劇作家、演出家、俳優、四国学院大学客員教授
長崎県出身。86年、東京乾電池「町内シリーズ三部作」を皮切りに作・演出を手掛け、89年『蒲田と達磨』で岸田國士戯曲賞を受賞。93年『これゆき男』『鳩を飼う姉妹』で第28回紀伊國屋演劇個人賞、98年『テレビ・デイズ』で第49回読売文学賞を受賞。17年『薄い桃色のかたまり』で鶴屋南北戯曲賞を受賞。俳優としてもテレビドラマ、映画、舞台に多数出演。近年の主な作・演出作品に、『舞台』『峠の我が家』(24)『カモメよ、そこから銀座は見えるか?』(23)『青空は後悔の証し』(22)『クランク・イン!』(22)『いのち知らず』(21)『そして春になった』(20)『二度目の夏』(19)『結びの庭』(15)がある。



木ノ下裕一 | Yuichi Kinoshita

補綴、木ノ下歌舞伎主宰
1985年和歌山市生まれ。2006年に古典演目上演の補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。代表作に『娘道成寺』『隅田川』『東海道四谷怪談一通し上演』『義経千本桜 一渡海屋・大物浦』『糸井版 摂州合邦辻』など。2015年に再演した『三人吉三』にて読売演劇大賞2015年上半期作品賞にノミネート、2016年に上演した『勸進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。第38回(令和元年度)京都府文化賞奨励賞受賞。まつもと市民芸術館芸術監督団団長。単著に『物語の生まれる場所へ 歌舞伎の源流を旅する』(淡文社)がある。



©篠山紀信

藤田貴大 | Takahiro Fujita

演劇作家、マームとジブシー主宰
2007年マームとジブシー旗揚げ。以降全作品の作・演出を担当。作品を象徴するシーンを幾度も繰り返すリフレイン。の手法で注目を集め、12年2月26歳の若さで岸田國士戯曲賞受賞。12年より様々なジャンルの分野の作家との共作を積極的に行うのと同時に、演劇経験を問わず様々な年代との創作にも意欲的に取り組む。『cocoon』で2016年第23回読売演劇大賞演出家賞受賞。近年の主な作品に『cocoon』『Light house』『equal』などがある。



糸井幸之介
Yukinosuke Itoi
劇作家、演出家、音楽家



岩井秀人

岩井秀人
Hideto Iwai
作家、演出家、プロデューサー



岩城 保
Tamotsu Iwaki
舞台照明家、日本大学芸術学部非常勤講師、埼玉県立芸術総合高等学校非常勤講師



カミイケタクヤ
Takuya Kamiike
美術家



工藤千夏
Chinatsu Kudo
劇作家、演出家、うさぎ庵主宰、青森県立保健大学非常勤講師



小池竹見
Takemi Koike
演出家、脚本家、双数姉妹主宰



白神ももこ
Momoko Shiraga
振付家、演出家、ダンサー、モモンガ・コンプレックス主宰



菅原直樹

菅原直樹
Naoki Sugawara
劇作家、演出家、俳優、介護福祉士、「老いと演劇」OiBokkeShi主宰



高橋克司
Katsuji Takahashi
音響家、東温音響株式会社代表取締役



竹内陽子
Yoko Takeuchi
衣装家



田野邦彦
Kunihiko Tano
演出家、ワークショップ・デザイナー



夏目雅也
Masaya Natsume
舞台監督、技術監督



ニア・デ・ヴォルフ

ニア・デ・ヴォルフ
Nir de Volf
ダンサー、振付家、ダンスカンパニーTOTAL BRUTAL主宰



林 成彦
Naruhiko Hayashi
演出家、NPO法人 PAVLIC 理事



深田晃司
Koji Fukada
映画監督
『LOVE LIFE』『本気のしるし』『よこがお』『淵に立つ』



ヘイニ・ヌカリ
Heini Nukari
ダンス・ボイスアーティスト、ボイストレーナー



松井 周

松井 周
Shu Matsui
劇作家、演出家、俳優、劇団 サンプル 主宰



三浦大輔
Daisuke Miura
脚本家、演出家、映画監督、劇団ボツドール主宰



明神 慈
Yasu Myojin
劇作家、演出家、ボカリン記憶舎主宰



森 新太郎
Shintaro Mori
演出家、演劇集団円所属、モナカ興業主宰



わたなべなおこ
Naoko Watanabe
劇団あなご-ワークス主宰、NPO法人 PAVLIC 理事、演出家、ワークショップファシリテーター

2025年度ノスタジオ公演スケジュール



キャンパスの南側にある、地域との交流拠点「ノスタジオ」では、1年を通して様々な公演を一般の方へ公開しています。公演観覧や劇場見学などのツアーも高校単位で承っておりますので、ぜひノスタジオへお越しください。

*お問い合わせは下記入試課まで。

4月5日(土)

オリエンテーション公演

ロミジュリ Contemporary

原作:ウィリアム・シェイクスピア

(ロミオとジュリエットより)

脚本・演出:西村和宏 /

ステージング:阪本麻郁

大学の新生オリエンテーション用に創作する作品を一般の方に向けて公開します。



©Hidetō Maezawa

6月5日(木)–8日(日)

四国学院大学アーティスト・イン・レジデンス・プログラム(SARP) vol.27

演出・構成・振付:岩淵貞太

ダンサー・振付家の岩淵貞太氏(DaBYレジデンス アーティスト)を迎え、本学学生とともに創作した作品を上演します。

6月14日(土)・15日(日)

第18回香川県高等学校演劇作品研究会

8月25日(月)

Nir de Volff ショーイング

講師:Nir de Volff

夏休みの集中講義に、ドイツから振付家のニア・デ・ヴォルフ氏を招き、「BBM / Breathing Bodies Movement」呼吸する身体の動きというメソッドを学び、最終日にショーイングというかたちで公開します。



©げんばのか



©Kato Shinpei

11月2日(日)

瀬戸内国際芸術祭 2025 参加作品

平家物語 REMASTER (SARP vol.28)

補綴:木ノ下裕一 / 演出:西村和宏

木ノ下歌舞伎の木ノ下裕一氏と本学教授の西村和宏がタッグを組み好評を博したSARP vol.16「平家物語REMASTER」を本島の芝居小屋千歳座で装いを新たに上演します。



©Don Carroll

12月5日(金)–7日(日)

オムツかぶれ公演

本学教授の仙石桂子が主宰する「オムツかぶれ」による新作を上演します。



2026年2月25日(水)–3月1日(日)

13期生卒業公演

作・演出・出演:演劇コース13期生

四国学院大学「身体表現と舞台芸術メジャー」の4年生が企画し、4年間の集大成となる舞台作品を上演します。



©Don Carroll

2026年

1月29日(木)–2月1日(日)

サラダボール公演

本学教授の西村和宏が主宰する「サラダボール」による新作を上演します。



©Makoto Tomioka

卒業生の進路



安田有里

[バイ・ザ・ウェイ所属]

(愛媛県/松山東高等学校出身)

大学卒業後、文学座附属研究所で一年間学び、今の芸能事務所所属になりました。現在は「松波燐子」という名前で舞台や映像作品に出演したり、レッスンを受けていたりしています。上京してからは、演劇コースで出会った同期や先輩の存在が心強いです。濃密な演劇生活を共に過ごしたからこそ、大切な仲間になれたのだと思います。



梶田航平

[俳優(フリーランス)]

(山口県/西京高等学校出身)

現在、東京でフリーの俳優として小劇場を中心に活動しています。芸能事務所が運営する俳優養成所にも通い、映像を前提とした表現力の研鑽にも努めています。最近では大学に講師として来られていた演出家の作品への出演もあり、今後も大学で得た技術や人との繋がりを更に伸ばしていくつもりです。



武内愛実

[有限会社オフィス新音]

(高知県/高知工業高等学校出身)

東京の音響会社で音響スタッフとして、演劇やミュージカル、コンサートに携わります。大学では俳優としてSARPや子ども向け作品に出演したり、音響、演出、制作として作品に関わってきました。大学で学んだ知識を実践しながら、将来的には音響デザインを担当する仕事に挑戦したいと考えています。



古賀美優香

[NPO法人メロディー]

(広島県/美鈴が丘高等学校出身)

「子ども福祉」と「身体表現と舞台芸術」の2つのメジャーで保育士資格を目指しながら演劇を学んできました。保育実習をしながら、照明・俳優として公演に関わるのは大変でしたが、演劇での学びを保育に活かし、デイサービスの児童指導員として働けるのはとてもありがたいです。地元の劇団に所属して照明や役者を続けていきたいと思っています。



四国学院大学

〒765-8505 香川県善通寺市文京町三丁目2番1号 / Tel:0877-62-2111(代表)

[お問合せ] 入試課 0120-459-433 / info@sg-u.ac.jp



大学HP



ノスタジオHP

NSメンバー募集中

本学の演劇教育支援へご賛同いただける方を募集しています。演劇公演を優先的にご招待いたします。詳細はHPをご覧ください。

